

PHARMACY

6年制薬学ガイド2027

一般社団法人 日本私立薬科大学協会 編



illustration : EMIKO HARA

FUTURE

薬剤師という未来

6年制薬学ガイド
公式WEBサイト



は | じ | め | に |

「薬剤師という未来」とは、どんな未来？

「薬剤師という未来」とは、
医療の最前線で人々の健康を支える役割を担う未来です。

患者さんとの 信頼関係

薬剤師は患者と直接対話し、
適切な薬の使い方や
健康管理について
アドバイスをを行います。

科学の 進歩に寄与

新薬の開発や
治療法の提案を通じて、
医療の進歩に
貢献します。

地域社会の 健康のサポート

地域の健康イベントや
啓発活動を通じて、
予防医療の重要性を
広めます。

チーム医療の一員

医師や看護師その他の
メディカルスタッフと連携し、
患者に最適な治療を
提供するために重要な
役割を果たします。

ライフスタイルの改善

健康相談を通じて、
患者の生活習慣の
改善を促進し、より良い
生活へと導きます。

薬剤師としての未来は、
医療の中心で人々の健康を支え、社会に貢献する素晴らしい道です。

CONTENTS

目次	ページ
1 AI がもたらす科学技術・イノベーションの変革	04
2040年の薬剤師	06
未来の医療・創薬を切り拓く薬剤師の可能性	08
2 6年制薬学教育の6年間の流れ	09
薬学部のキャンパスライフ	10
3 大学での学び モデル・コア・カリキュラム	15
4 多様な研究が未来を切り拓く	22
5 卒業後の進路	24
全国薬科大学・薬学部一覧	30

6年制薬学ガイド2027

発行日	2026年3月20日
編著	一般社団法人 日本私立薬科大学協会
編集委員長	亀井美和子 帝京平成大学 薬学部長
編集委員	有田悦子 北里大学 薬学部教授 大津史子 名城大学 薬学部教授 角山香織 大阪医科薬科大学 薬学部専門教授 武田香陽子 北海道科学大学 薬学部教授 渡部一宏 昭和薬科大学 理事長
制作	(株)エニイクリエイティブ
デザイン	(株)アナザー・レポート
発行所	(株)エニイクリエイティブ 160-0006 東京都新宿区舟町 1-13 スリーオークスビル 3F TEL 03-3350-4657 FAX 03-3350-0735 URL https://www.anyocr.net/

※本誌記事の無断転載を固く禁じます
※所属・役職・学年は取材時

AIがもたらす科学技術・イノベーションの変革

未来の薬剤師に思いを馳せてみませんか



2040年の薬剤師

日本に押し寄せている2040年問題。2040年には高齢人口の最大化と生産年齢人口の激減が同時に起こり、これによって医療の担い手が不足するとともに、年金や医療費など社会保障費の増大が予想されており、医療体制の崩壊が懸念されています。一方でAIなどの導入による新しい治療薬の開発や遠隔医療など、新しい医療の形も期待されているところです。こういった状況の中、薬剤師は社会の中でこういった役割を果たせばいいのでしょうか。薬学領域の専門家に2040年の薬剤師のあるべき姿について聞いてみました。

薬剤師の「人間力」が医療の質を左右する

溝神 文博 国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター
薬剤部薬物治療管理主任・長寿医療研修部高齢者薬学教育研修室室長

——2040年に向けて、薬剤師の役割はどのように変化していくと思われますか。

私の病院の患者さんは80代後半の方が中心で、デジタルツールにはほとんどなじみのない世代です。しかし、2040年頃に高齢者になるのは、スマートフォンをはじめとするデジタル技術に慣れ親しんだ世代であるため、技術の活用に対する抵抗感は今よりも格段に少なくなるでしょう。

ただ、患者さんの服薬に関するトラブルは実に多様であり、それらをデジタル技術だけで完全に防ぐことは難しいと思います。調剤や処方監査の自動化が進み、ポリファーマシー^{*}対策や副作用の評価も効率化されるとは思いますが、認知機能の低下や服薬ミスといった予測困難な問題に対しては、やはり人間の介入が不可欠でしょう。何げない会話から得られる情報が鍵となる場合も多く、薬剤師の経験や観察力、コミュニケーション能力といった「人間力」が、医療の質を大きく左右することは変わらないと思います。

——薬剤師を目指す若い世代へ、メッセージをお願いします。

私自身がそうでしたが、高校時代に理系科目が好きだった方にとって、特に薬学部での学びはきっと楽しいものだと思います。しかし同時に、そこで得た知識を「誰のために」、「どのように活かすのか」を常に意識することが大切だと感じています。

私は「患者さんに寄り添う医療に携わりたい」という思いから、病院薬剤師の道を選びました。医療の現場で日々実感するのは、薬剤師に薬の専門知識だけでなく、患者さんの生活背景や価値観を理解し最適な支援について考える力が求められているということです。

近年、薬剤師の活躍の場が広がり、医師への処方提案や患者さんとの対話を通じて医療の質を高める役割が期待されています。ぜひ社会的課題にも目を向けて、患者さん一人ひとりに寄り添える薬剤師を目指して挑戦し続けてほしいと思います。

※ポリファーマシーとは、多剤併用によって有害事象（副作用など）が生じている状態を指す。



溝神 文博 氏

2007年に薬学部卒業、同年4月より国立長寿医療研究センター薬剤部に入職。2014年に大学院にて博士（薬学）を取得する。2017年より厚生労働省高齢者医薬品適正使用検討会構成員として、高齢者の安全や薬物療法ガイドラインの策定などに関与する。主な研究内容は、ポリファーマシーなど高齢者薬物療法に関する研究。6NC(National Centers) リトリート JH(Japan Health Research Promotion Bureau) 本部賞、日本老年薬学会第1回 YIA (Young Investigator Award) 賞などを受賞。

薬を渡す人から人生の伴走者へ

漆畑 俊哉 株式会社なかいまち薬局 代表取締役社長

——2040年に向けて、薬剤師の役割はどのように変化していくと思われますか。

デジタル技術の進歩は目覚ましく、AIが人知を超える瞬間も間もなくやってくるといわれています。薬剤師の仕事においても、調剤や記録、確認業務などはすでに自動化が進みつつあり、これからは人間にしかできない領域へ役割をシフトしていく必要があると思います。

スマートフォンやウェアラブル機器を通じて得られる血圧・脈拍・呼吸数などのバイタルサインに加え、家庭用心電計などによる心臓の状態の把握も可能になりつつあります。薬局にはこうした日常的な健康データから異常を早期発見し医療への受診タイミングを見極める「薬学的トリアージ」の役割が求められるようになると思います。さらに、数値情報だけでなく、患者さんの生活背景や価値観、家族構成などを踏まえた服薬支援や生活習慣の提案も、薬局が担うべき重要な役割になっていくと考えられます。

セルフメディケーションの時代においては、市販薬やサプリメントの選び方・使い方を支える役割も欠かせません。現在、OTC薬を自分で選ぶ場面では、情報が不十分なことも多く、専門家が常駐していない売り場では判断が難しいケースもあります。全国に6万3千ある薬局が、地域の健康拠点として信頼できる薬剤師との接点を提供する場になることが期待されます。

——薬剤師を目指す高校生にメッセージをお願いします。

私は幼い頃、喘息で薬が身近にあり薬学に興味を持ちました。当初は研究者を志しましたが、「この研究は本当に患者さんの暮らしを変えうるのか？」と考えるようになり、薬局を開業する道を選びました。薬学部の6年制教育では、知識だけでなく「人間力」も育まれます。これからの薬剤師には、薬を渡すだけの人ではなく人生を支える伴走者になることが求められるはずです。ぜひ一緒に、知恵を合わせながら新しい医療を築いていきましょう。



漆畑 俊哉 氏

2006年に薬学部を卒業、2011年に大学院を修了した。神奈川県内の地場薬局勤務を経て、2013年になかいまち薬局（神奈川県中井町）を開業。現在、神奈川県西地域で4店舗を展開している。2024年12月には、薬局における心不全療養の課題に対し、一般社団法人日本心不全薬学共創機構を設立し、代表理事に就任。地域医療の現場から、心不全治療への薬学的貢献を推進している。薬剤師、博士（薬学）。

変わる医療、変わらない薬剤師の本質

佐藤 周子 シドニー大学医学部・薬学部リサーチフェロー

——2040年に向けて、薬剤師の役割はどのように変化していくと思われますか。

薬剤師の本質的な役割は、患者さんに寄り添い、患者さんの生活背景を踏まえて服薬指導をしていくことであり、その部分はこれから先も変わらないと思います。これまで薬歴^{*}が紙から電子に変化してきても、そうした薬剤師の役割は変わっていません。デジタル技術が進歩することで変化していくのは調剤や記録といったバックヤード業務の部分だと思うので、むしろ対人業務という本来の仕事に割ける時間が増えていくとポジティブに捉えています。

世界の研究者と話す機会がありますが、薬学教育の現場ではAIを用いたケーススタディなどが増えてきています。多くの症例を効率よく学べるためです。ただし、それでも対人業務の実践訓練は、欠かせないといわれています。これからの薬剤師にはデジタルリテラシーに加えて、これまで以上に高度なコミュニケーション能力と高い専門性が必要になってくると思います。

——薬剤師を目指す高校生にメッセージをお願いします。

私は、高校時代に化学の授業が大好きだったことから、薬学部へと進学しました。ところが、入学後は基礎薬学より生理学や病態学などの臨床薬学のほうに面白みを感じるようになりました。そもそも救急医療のテレビ番組なども好きだったので関心があったのだと思います。そうして臨床の道へ進みましたが、今ではオーストラリアで高齢者医療の研究に取り組んでいます。

薬学部は、研究、臨床、教育、国際活動など進路の幅が広く、選択肢が数多くあります。また、6年制薬学教育で培われる患者さんから情報を聞き取り整理する力や臨床知識は、どのような進路を選んでもどの国でも活かされます。「日本の薬剤師は処方箋をもとに患者さんの生活背景まで丁寧に聞き取る力がある」と、海外でも高く評価されています。少しでも薬学に興味があれば、自分の可能性を信じて、ぜひ一歩踏み出してみてください。

※薬歴（薬剤服用歴）とは、薬剤師が患者ごとに作成する、薬の服用状況、指導内容、およびその後の経過を記録した継続的な管理文書。



佐藤 周子 氏

シドニー大学で高齢者医療（フレイル、減薬）の研究に従事する研究員。薬学部を卒業後、病院・薬局で計8年の臨床経験を積む。オーストラリアで公衆衛生学修士、薬学博士を取得。ニューサウスウェールズ州の病院データを用いたビッグデータ解析を専門とし、ヨーロッパの臨床薬学研究団体（Pharmaceutical Care Network Europe）のワーキンググループのメンバーとして世界20カ国と連携しながら薬局サービスの質向上にも取り組んでいる。



未来の医療・創薬を切り拓く薬剤師の可能性 他業種から薬剤師への期待

未来の医療は、薬学を志す皆さんの手に委ねられています。命と創薬をつなぐキーパーソンとしての無限の可能性を、各分野のスペシャリストが語ります。



日本製薬工業協会 会長 宮柱 明日香 氏

未来の薬剤師に求められる力 ~薬剤師がつなぐ、医療と創薬~

長崎県出身。九州大学大学院修了後、武田薬品工業にMRとして入社。国内でコマーシャル・メディカル部門を経て、インドネシア・ベトナムで事業戦略・変革を推進。帰国後は九州沖繩支店長、神経精神疾患事業部長を歴任。2024年4月より同社ジャパンファーマービジネスユニットプレジデント、2025年5月に日本製薬工業協会会長に就任。「不易流行」の精神で業界変革に挑む。

新しい薬が患者さんのもつに届くまでには、病気の原因を探る研究から、将来の薬の候補となる物質(成分)の発見、有効性・安全性をみる臨床試験(治験)、承認・製造・販売後の安全性確認まで、長い道のりがあります。薬剤師は、病院や調剤薬局で患者さんの治療を支える仕事はもちろん、製薬企業で活躍する方も多く、創薬や開発、製造、市販後の調査に関わっています。つまり、薬剤師は、薬が生まれてから患者さんに届くまでのあらゆる段階に携わる可能性があります。

医薬品の世界では今、薬の分類や技術が多様化しています。従来の飲み薬や注射薬に加え、抗体医薬、核酸医薬、細胞治療、遺伝子治療など、新しいタイプの薬が登場しています。こうした薬の選択肢が広がることで、薬剤師の役割も進化しています。

薬剤師は、薬の知識と人をつなぐ専門家です。医療の現場では、薬剤師が複雑な薬の仕組みを理解し、医師や看護師と協力して、患者さんに分かりやすく伝える力がますます重要になります。AIやデータの活用で効率化が進んでも、患者さんの気持ちに寄り添い、判断し、問いかけることは人間にしかできません。

薬は人の命に関わるものです。だからこそ、技術だけでなく、倫理観や思いやりが未来の薬剤師の価値を形づくります。いつか皆さんと一緒に、医療の未来を切り拓くイノベーションを共創できることを、私は心から楽しみにしています。



医療法人社団悠翔会 理事長・在宅医 佐々木 淳 氏

AIにはできない仕事! 「薬物療法」の主役となる薬剤師の可能性

1998年筑波大学医学専門学群を卒業後、内科・消化器内科等での勤務を経て、2006年に在宅療養支援診療所を開設。2008年、医療法人社団悠翔会を法人化し、理事長に就任。現在、首都圏を中心に多拠点で約1万人の在宅患者に対し、24時間対応の在宅総合診療を提供している。その知見から、2021年からは内閣府・規制改革推進会議の専門委員も務め、日本の医療政策や制度設計に深く関与している。

薬剤師の役割は今、大きな転換期を迎えています。医療は医師、看護師、そして薬剤師などの多職種チームで行われますが、医師による医療介入の大部分は薬物療法であり、薬の専門家である薬剤師が担う責任は極めて重大です。特に高齢化が進む在宅医療の現場では、多くの薬を服用する「ポリファーマシー」が深刻化しています。これは単に薬が増えるだけでなく、転倒や認知機能の悪化など、さまざまな健康被害を引き起こす原因となります。

皆さんが薬学を志すうえで目指すべきは、単に薬を渡す人ではありません。患者さん一人ひとりの生活や認知機能、体調を深くアセスメントし、安全かつ最適な処方設計・提案できる能力を身につけることです。医師に対して、不要な薬を減らす「減薬」を積極的に提案したり、ある薬の副作用を別の薬で抑える悪循環「処方カスケード」を見抜いて防いだりする役割は、今後ますます重要になります。

調剤や一般的な薬の説明は、将来的に機械やAIが担う可能性が高まります。だからこそ、皆さんは「薬の知識」だけでなく、病気の知識、そして人が生きていくこと全体に関心を持つ「全人的ケア」の視点を養ってください。薬物療法の専門家として、患者さんの人生の質(QOL)を豊かにできる、主体的な医療人を目指してほしいと願っています。



株式会社NHKエンタープライズ シニア・プロデューサー/ディレクター 下村 幸子 氏

「人を知る観察力」が専門性を高め、社会を変える

NHKエンタープライズのシニア・プロデューサー/ディレクター。1993年入社以来、ドキュメンタリー番組の企画制作を中心に活動。特に医療や生死をテーマとした作品に定評があり、NHK BS1スペシャル「在宅死～死に際の医療200日の記録」(日本医学ジャーナリスト賞大賞)、NHKスペシャル「大往生わが家で迎える最期」など、数々の受賞作を手がける。著書に「いのちの終いかた」。近年は小児集中治療室(PICU)など最先端の医療現場にも密着している。

薬剤師は、薬の知識という確固たる専門性を持つ「薬のプロフェッショナル」です。しかし、私たちが取材で「すごい」と感じたのは、薬の話以上に、患者さんの生活や人生そのものに関心を持ち、深く関わっていた方々でした。

薬の効果は、その人がどんな生活を送り、何を大切にしているかによっても大きく左右されると思います。在宅医療の現場では、医師には言えない不安を薬剤師に打ち明ける患者さんの姿をみました。必要なのは、患者さんの家で薬の話だけでなく、本棚にはどんな本があるかや、「庭のお花が綺麗ですね」といった会話から、健康状態や心の機微を察する「観察力」と「人間力」です。薬の専門性に加えて、この「人を知ろうとする姿勢」こそが、薬剤師の専門性を真に活かす土台となるのではないのでしょうか。

また、これからの薬剤師は、地域の健康を支えるため、自ら薬局の外へ踏み出し、「現場」を創造していく行動力が求められます。地域の集まりで健康指導を行うなど、既存の枠にとらわれないアイデアを形にする柔軟性も必要です。

薬剤師は、命と健康を守る「薬のプロ」であると同時に、地域社会の重要な「コミュニケーター」としてのポテンシャルを秘めていると思います。皆さんが、その豊かな人間性と柔軟な創造性を駆使し、これからの医療と社会の中で、なくてはならない存在として輝くことを期待しています。

※ MR (Medical Representatives) : 医薬情報担当者の略称で、自社医薬品の適正使用および薬物治療の向上に貢献するために、医薬品の品質・有効性・安全性等の情報を扱う医薬品情報の専門家

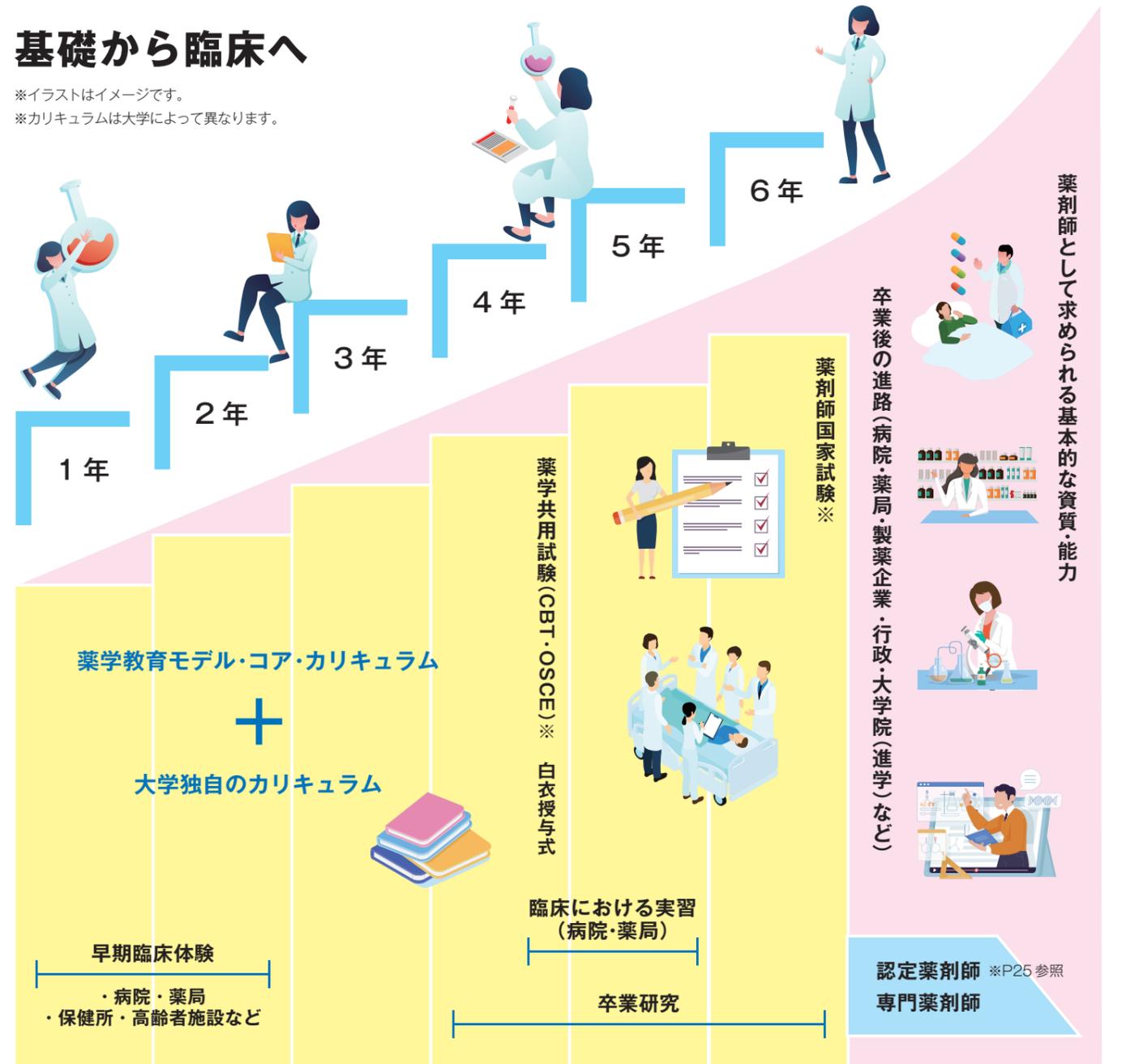
6年制薬学教育の6年間の流れ

6年制薬学教育は、「薬学教育モデル・コア・カリキュラム」(以下、「コアカリ」という。P15参照)に準拠して行われ、これが6年制の薬学部での学びの柱となります。卒業したときに「これだけのことができるようになっていく」という目標を設定し、それを達成できるように必要な学修を体系的に整理した教育です。

コアカリがあるからといって、どの大学も同じことばかり行うわけではありません。各大学の特色を活かした講義や演習、実習がコアカリと調和して、各大学の独自のカリキュラムとして示されています。

基礎から臨床へ

※イラストはイメージです。
※カリキュラムは大学によって異なります。



※薬学共用試験
薬剤師資格を持たない薬学生が実際に患者を相手に実務実習を行うために、学生の知識・技能・態度が一定のレベルに到達していることを確認するための試験です。主に知識を評価する試験(CBT:Computer-Based Testing)と、実技を通して技能・態度を評価する試験(OSCE: Objective Structured Clinical Examination)の2種類から成り立っています。

※薬剤師国家試験
厚生労働省が毎年2月頃に実施する薬剤師になるために必要な資格試験のことです。受験資格は6年制薬学課程(6年制薬学部)を修めて卒業した者に限定されています(「薬剤師法第15条」)。

薬剤師として求められる基本的な資質・能力

卒業後の進路(病院・薬局・製薬企業・行政・大学院(進学)など)

認定薬剤師 ※P25参照
専門薬剤師



薬学部のキャンパスライフ

薬学部では、医療や薬学の専門知識や技能、態度を修得するための授業がさまざまな形式で実施されています。また、クラブやサークルなどの課外活動では、先輩や後輩、仲間との交流を通じて人間性を豊かに育むことができます。大学は人生の中で最も自由な時間が多く取れる環境です。どんなことにも積極的に参加し、自分自身を成長させ、後悔のない学生生活を送りましょう。

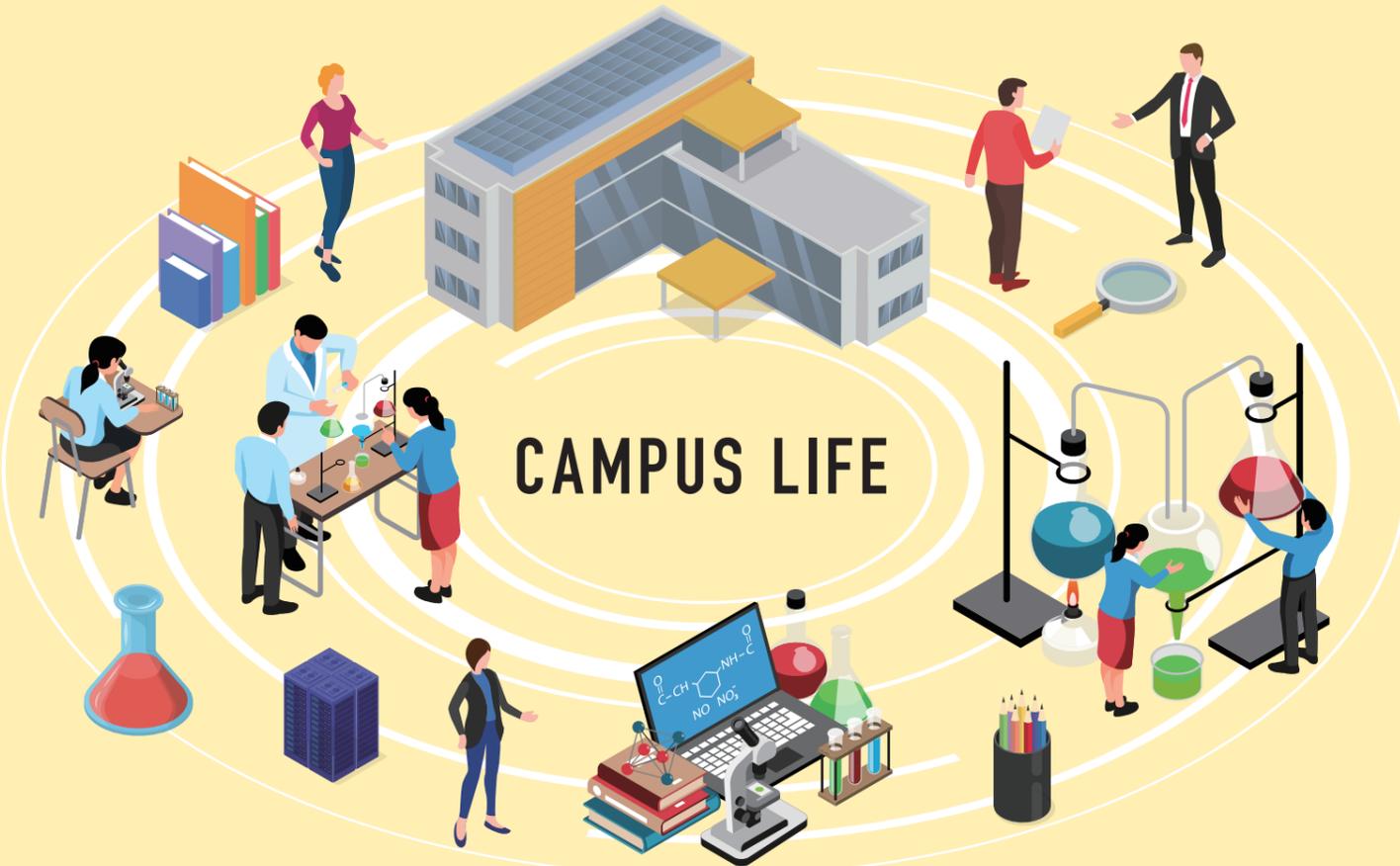


Image by freepik

薬学部 どんどころ？



実験風景



学生ラウンジ



授業風景



薬用植物園



薬用植物園

入学から卒業まで

低学年のキャンパスライフ

基礎実習



基礎実験風景



上級生による下級生の指導風景



授業風景



基礎実験風景



救命救急について学ぶ



車椅子実習

学園祭



学園祭風景

高校生との交流



薬学の学びや研究内容を紹介し、高校生と交流

高学年のキャンパスライフ

オープンキャンパス



実習室で3年生の実習を紹介

国際交流



国際交流



薬学共用試験 OSCE に向けた練習の様子

白衣授与式

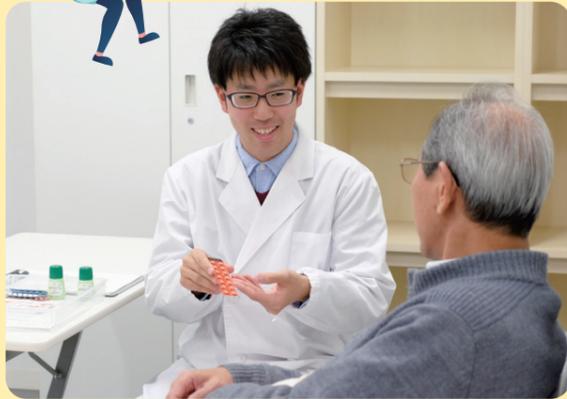


白衣授与式の様子

学内での臨床実習



フィジカルアセスメント実習



模擬患者とのコミュニケーション実習



白衣授与式の様子



皮下注射シミュレーションの訓練



病院・薬局での臨床実習



病院実習 医療チームカンファレンスの様子



オンライン服薬指導の実習



症例検討グループ発表会の様子



VR(Virtual Reality)を用いた学習



薬物治療の最適化を目指したグループディスカッション



病院実習 ベッドサイドでの服薬指導



病院実習 無菌状態で薬を調製



薬局実習 薬局での服薬指導



薬局実習 患者の相談に応じて一般用医薬品を提案



研究成果を学会で発表



卒論発表会（ポスター発表）



卒業式の風景



図書館自習室での勉強の様子



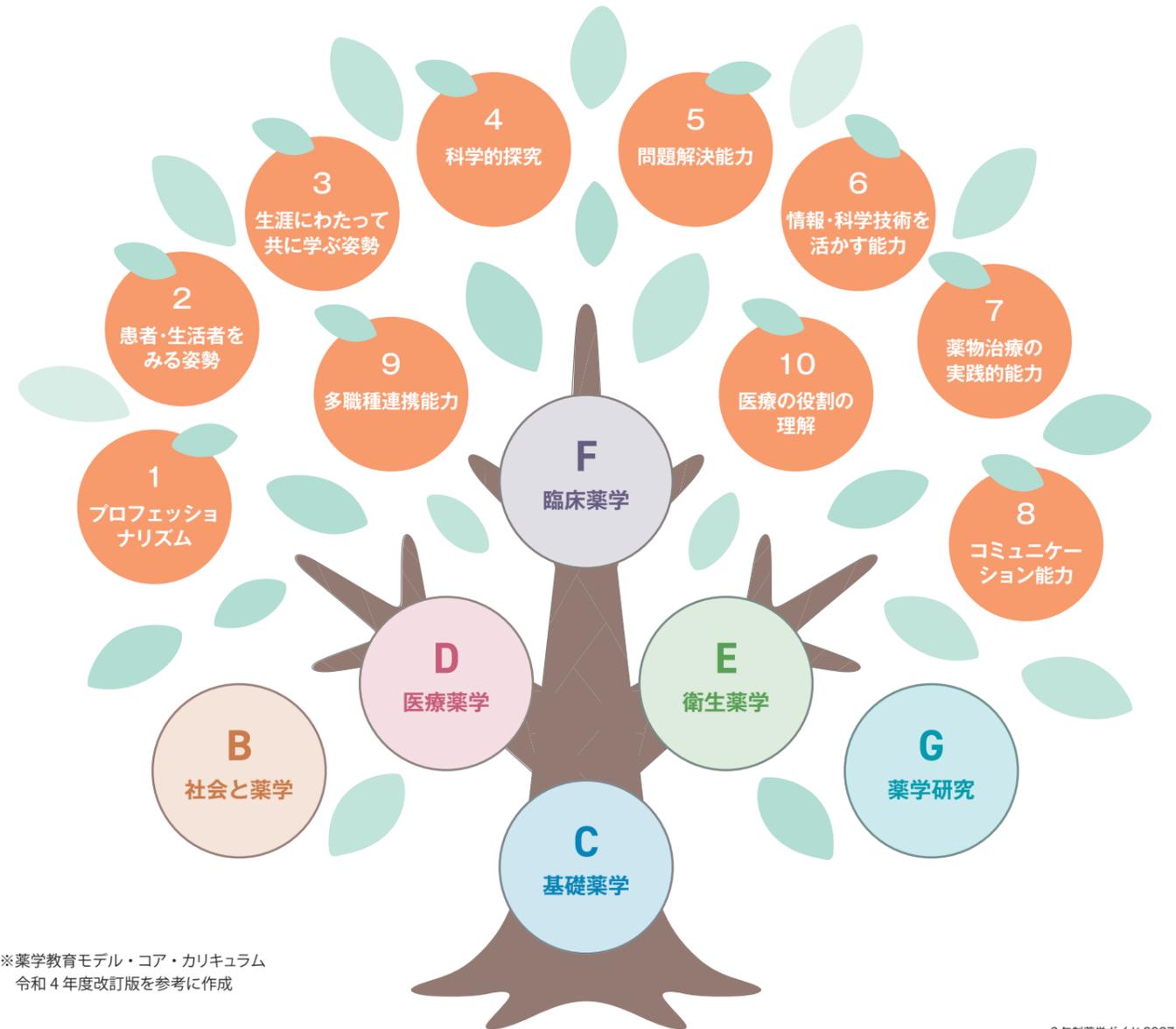
大学での学び モデル・コア・カリキュラム

薬学教育モデル・コア・カリキュラムは A から G までの 7 つの大項目から成り立ちます。最初に A として 10 の「薬剤師として求められる基本的な資質・能力」が掲げられています。医療人として求められる基本的な資質・能力について、医学・歯学・薬学間で議論し共通化したものです。7 番目の「薬物治療の実践的能力」には薬学の独自性が込められています。これらの資質・能力は、学修・研修などの成果、いわば果実のようなものですが、学部教育だけでなく生涯にわたって研鑽していくべき内容を含んでいます。

「B 社会と薬学」「C 基礎薬学」「D 医療薬学」「E 衛生薬学」「F 臨床薬学」「G 薬学研究」の大項目は「A 薬剤師として求められる基本的な資質・能力」の達成を目指した学修目標と位置付けられます。

各大学は、これをもとに独自のカリキュラムを構築して教育を実施します。6 年制の薬学生は大学でこれらの内容を学修し、薬剤師となってもさらなる研鑽によって「A 薬剤師として求められる基本的な資質・能力」の向上に努めることになります。

A 薬剤師として求められる基本的な資質・能力



※薬学教育モデル・コア・カリキュラム 令和4年度改訂版を参考に作成

B 社会と薬学

変化・多様化していく社会で、生涯を通して薬剤師としての役割が実践できるように、入学から卒業までの期間を通して人間性・社会性を育み、倫理や法のもとに適切に判断して行動する能力、情報・科学技術を活用する能力を養います。

■社会と薬学の主な学修内容

●薬剤師の責務

倫理観の醸成、プロフェッショナリズム、患者中心の医療、薬剤師の社会的使命と法的責任について学び、生涯を通じて役割を実践するという心構えを身につけます。

●薬剤師に求められる社会性

共感的な姿勢、円滑なコミュニケーション、多職種連携について学び、医療現場での実践につなげます。

●社会・地域における薬剤師の活動

地域社会の健康生活を確保するための役割、医療提供体制、社会保障制度、医療資源の有効利用について学び、医療現場での実践につなげます。

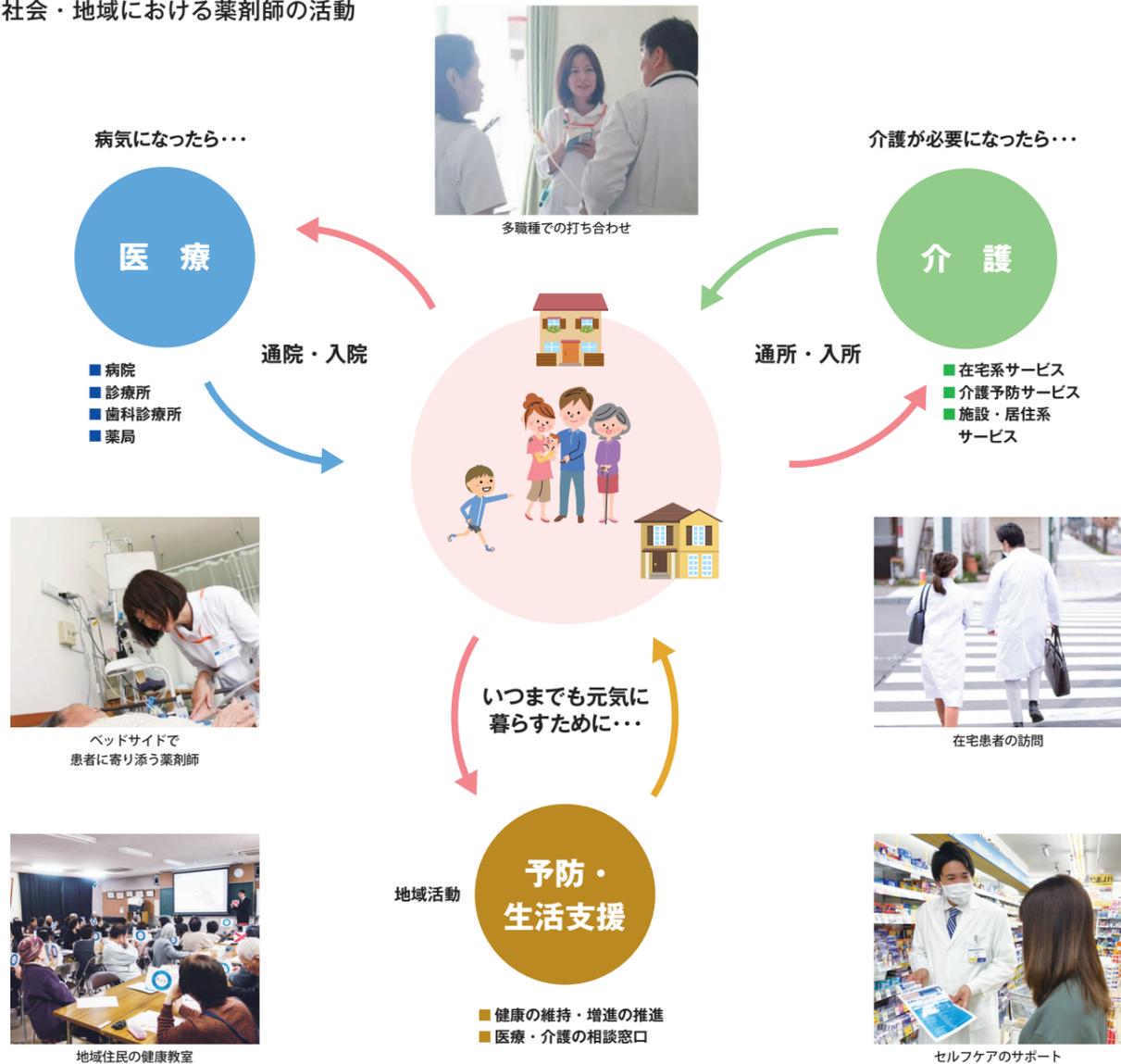
●医薬品等の規制

医薬品開発、医薬品等に係る規制、流通・管理の仕組みを学び、医薬品等の品質・有効性・安全性の確保、薬害の防止、適正使用につなげます。

●情報・科学技術の活用

保健医療統計、デジタル技術の活用、データサイエンス、薬剤師の活動の成果について学び、公衆衛生の向上と薬学発展につなげます。

■社会・地域における薬剤師の活動



地域のあらゆる場所で薬剤師が活動しています

C 基礎薬学

物理化学系、化学系、生物・生化学系、解剖・生理学系の4つの系から構成され、この後に学ぶ「D 医療薬学」「E 衛生薬学」「F 臨床薬学」「G 薬学研究」の土台となり、臨床で薬剤師に求められる専門性の基盤となります。

■基礎薬学の主な学修内容

物理化学系

●化学物質の物理化学的性質

- ・化学結合と化学物質・生体高分子間の相互作用の仕組み
- ・物質の状態変化・溶解・酸化還元とエネルギーのやり取りの関係
- ・化学反応に関わる物質の時間的変化

●医薬品及び化学物質の分析法

- ・化学物質の分析法

生物・生化学系

●生命現象の基礎

- ・細胞の成り立ち、遺伝情報の伝達、生命活動・細胞内情報伝達を担う分子
- ・病原微生物

化学系

●薬学の中の有機化学

- ・有機・無機化合物の化学構造と基本的性質や反応様式
- ・有機化合物の構造解析法

●薬学の中の医薬品化学

- ・医薬品に含まれる官能基の特性
- ・化学構造に基づいた医薬品と生体分子の相互作用の理解

●薬学の生薬学・天然物化学

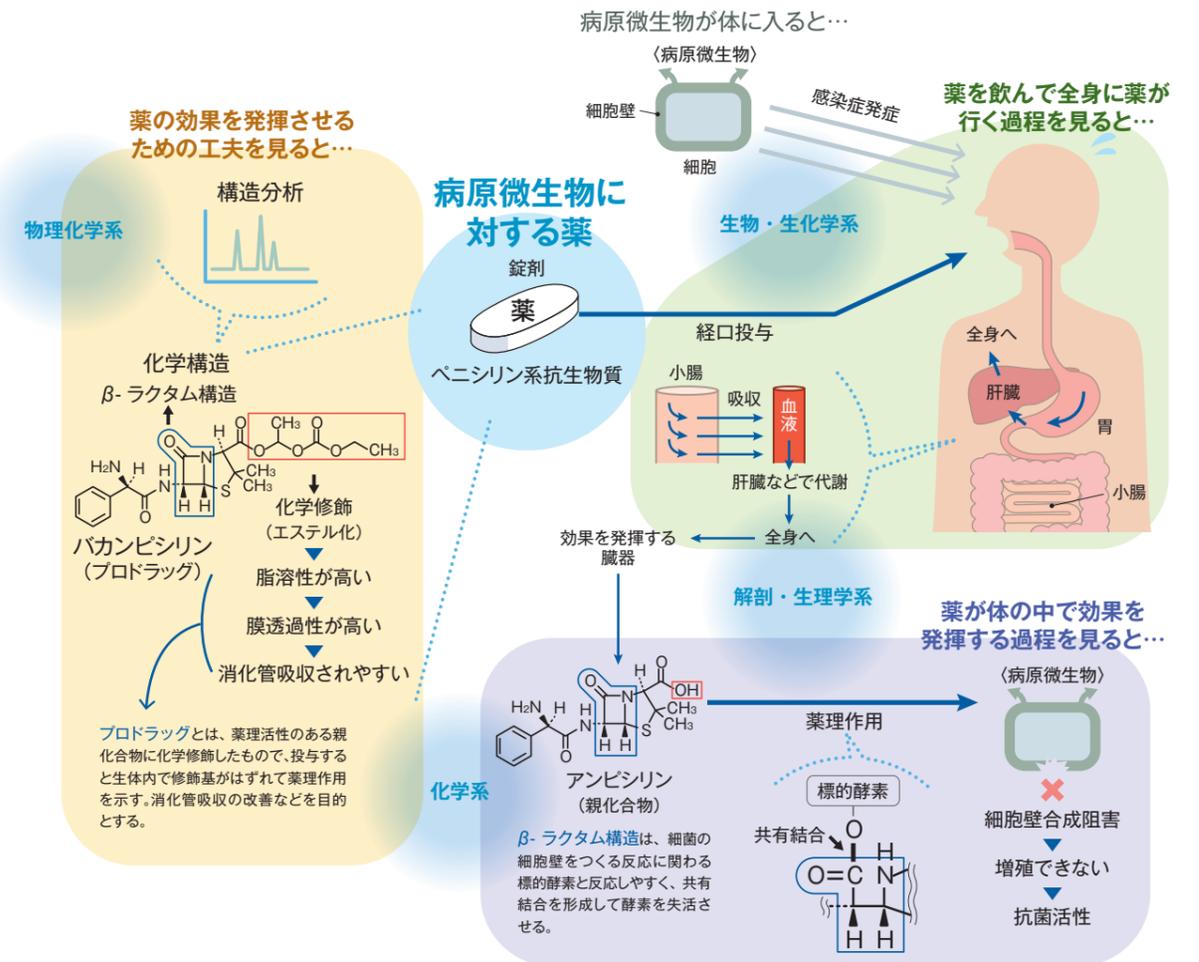
- ・生薬の特徴・用途、天然物医薬品の化学構造・生合成経路

解剖・生理学系

●人体の構造と機能及びその調節

- ・人体の個体・器官・細胞・遺伝子レベルでの理解
- ・免疫応答による生体内防御機構

■基礎薬学の結び付き(例：ペニシリン系薬)



基礎薬学を構成する4つの系の学修内容は相互に密接に結びつき、薬学の科学的根幹を形成するほか、薬剤師に求められる専門性の基盤を構築します。

D 医療薬学

「C 基礎薬学」で学んだ物性、化学構造、生体の恒常性などを基盤として、病態生理と薬物の作用メカニズムを関連付けて系統的に学びます。また、根拠に基づく医療を提供するために医薬品情報の評価、薬物動態の理論、適切な用法・用量・剤形の選択などを修得し、「F 臨床薬学」での患者個々の薬物療法の実践につなげます。

■医療薬学の主な学修内容

●薬物の作用と生体の変化

薬が効果を現すメカニズムの基本と、身体の正常反応に対して、病気で現れる異常な症状や検査値異常を学びます。

●薬物治療につながる薬理・病態

主な疾患の発現するメカニズムとそれに対して薬が効果を現すメカニズム、さらに副作用の発現するメカニズムを学びます。

●医療における意思決定に必要な医薬品情報

医薬品についての適切な情報を入手して評価し、適応する方法や考え方を学びます。

●薬の生体内運命

医薬品が身体に入ってから効果を現して、出て行くまでの基本的な理論を学び、患者個々にどのように調節するかを学びます。

●製剤化のサイエンス

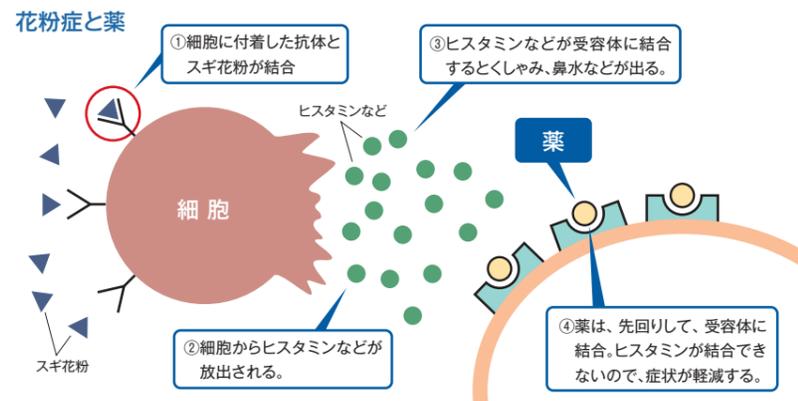
医薬品には、さまざまな形があります。患者に適した剤形の選択ができるようになるために、それぞれの特徴を学びます。

●個別最適化の基本となる調剤

薬剤師として行う調剤の基本や処方箋について学びます。

薬理・病態

病気が発症するメカニズムとその病気に薬が効くメカニズムを学びます。



医薬品情報

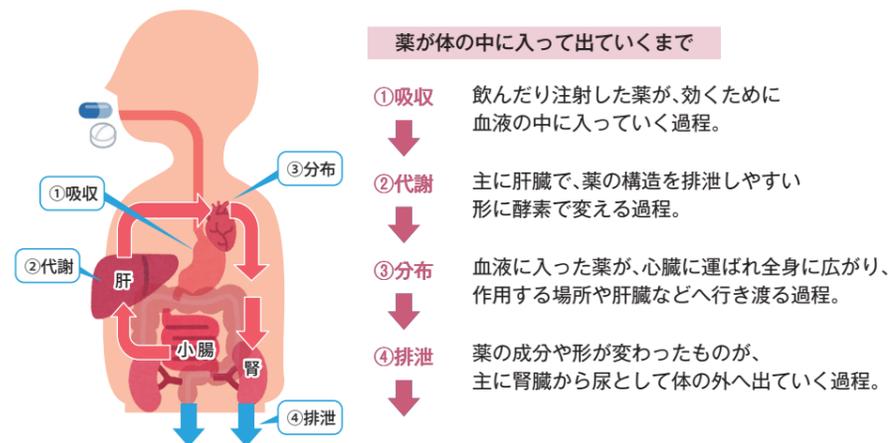
薬や病気の情報を入手する方法、たくさん情報を評価し、患者さんに適応する方法を学びます。



医療においてさまざまな意思決定をするために、どんな情報が、どこにあって、どうやって入手し、どう評価するか、そしてどう適応するのかを学びます。

薬剤・製剤

薬が体の中に入ってから出ていくまでの仕組みとどう調節するかを学びます。患者さんに適している剤形は何か、考える力をつけます。



薬が体の中に入って出ていくまで

- ①吸収 飲んだり注射した薬が、効くために血液の中に入っていき過程。
- ②代謝 主に肝臓で、薬の構造を排泄しやすい形に酵素で変える過程。
- ③分布 血液に入った薬が、心臓に運ばれ全身に広がり、作用する場所や肝臓などへ行き渡る過程。
- ④排泄 薬の成分や形が変わったものが、主に腎臓から尿として体の外へ出ていく過程。

E 衛生薬学

社会・集団における人の健康を科学し、薬剤師として身体的、精神的な健康の維持・増進に貢献するための学修領域であり、「B 社会と薬学」や「C 基礎薬学」「D 医療薬学」で修得した内容をもとに「公衆衛生」「食品衛生」「環境衛生」について学修します。

■衛生薬学の主な学修内容

●健康維持・増進をはかる公衆衛生

さまざまな疾患や健康被害に関する基礎知識を土台として、周囲の環境(環境要因)が体に与える影響と、それによって起こる病気の予防策を学びます。あわせて、現代社会において不可欠な感染症の拡大防止策についても理解を深めます。

●健康の維持・増進につながる栄養と食品衛生

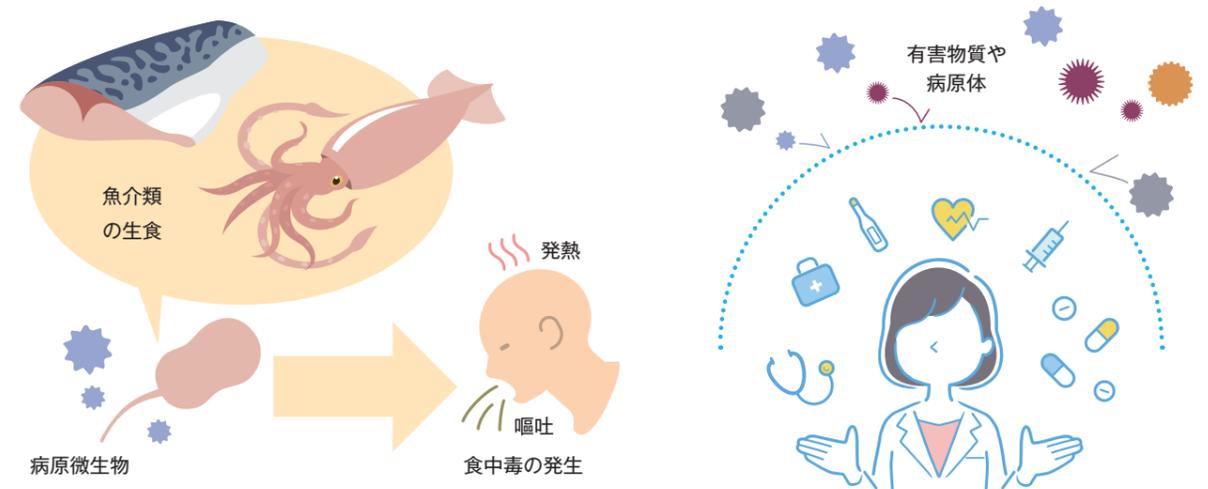
心身の健康を支える食品や栄養の役割を理解し、その機能や、病気の予防・治療に効果的な栄養管理を学びます。また、食品の安全性を守るための衛生管理の手法や、食中毒などの健康被害を防ぐための具体的な対策を習得します。

●化学物質の管理と環境衛生

人の健康に影響を及ぼす化学物質の基礎知識を学び、それらを適正に管理・使用するための技能と、健康被害を防ぐための方法を身につけます。さらに、自然や生活環境を適切に保全し、環境汚染や環境悪化による健康被害を未然に防ぐための策を学びます。

●保健統計、関係法規・制度、疫学

健康や疾病に関連する保健統計や法規・制度、行政機関、分析のための疫学的手法など、さまざまな疾病の予防策や健康被害の防止策を立案するのに必要な能力を身につけます。



F 臨床薬学

「C 基礎薬学」「E 衛生薬学」で学ぶ化学物質や生体の基礎知識を基に、「D 医療薬学」で学ぶ疾患や医薬品の知識を総合的に活用して、適切な薬物治療の計画を立案し、「B 社会と薬学」で学ぶ医療人としての考え方や生活者本位の視点も踏まえ、医薬品の適正使用を推進し、個別最適な薬物治療を実践する能力を身につけます。

臨床薬学の主な学修内容



●Phase I

大学での実務実習前の学修では、症例や事例等を利用した薬物治療の個別最適化の訓練をシミュレーション等により実施し、実務実習で患者・生活者に適切に対応するための基本的な能力を修得します。



模擬症例の課題から学ぶ [PBL: Problem-Based Learning]
「D 医療薬学」で学んだ標準的な疾患や薬物治療の学びを具体的な患者さんの症例を用いて、統合する訓練をします。患者さんの薬物治療を最善・最適なものにするには、何をどう考えて、どんな行動を取れば良いか、そのアプローチを学びます。また、模擬患者さんにお手伝いいただき、患者指導や聞き取りの訓練も行います。

模擬症例
70歳、女性。体重：45kg 検査値：肝機能上昇、腎機能低下
病名：関節リウマチ 服用薬：メトトレキサート
この患者さんは、歯が痛くて鎮痛剤のイブプロフェンを購入するために薬局を訪れました。お話をよく聞くと、歯が痛いに加え、最近食欲がないとのこと。さて、この患者さんにイブプロフェンを販売して問題はないでしょうか？



シミュレーターを使って学ぶ(シミュレーション教育)



●Phase II

薬物治療を実践できる能力を身につけるため、医療現場で実際の患者さんを担当し、その患者さんに最適な薬物治療が提供できるように考え、計画します。その繰り返しから、どのようにして薬物治療を組み立て、有効性や安全性を担保し、患者をサポートしていくかを学びます。さらに、医療現場には、薬剤師以外にたくさんの職種が連携して最善の医療を提供するために協働しています。その現場で、社会からのニーズを肌で感じながら、薬剤師の職能をどう活かすのかを学びます。



病院で行う臨床実習



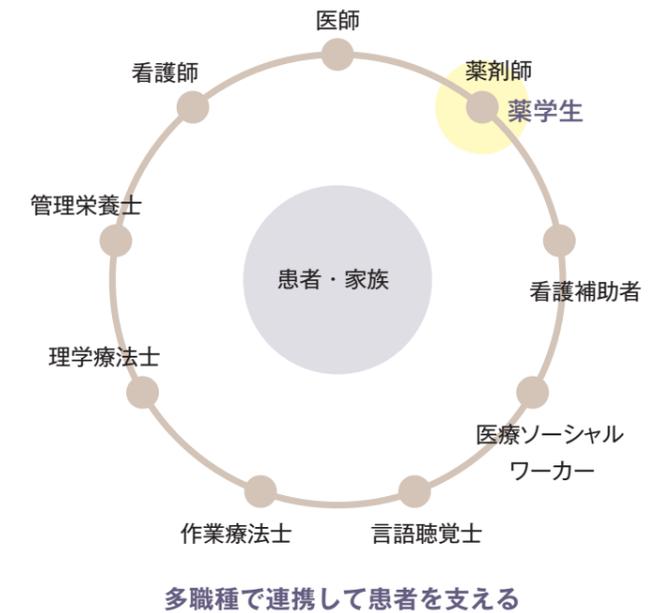
ベッドサイドでの服薬説明



患者宅での血圧測定

●Phase III

大学に戻ってから、臨床現場で経験した症例や事例を振り返ります。多様な経験を共有し、議論し、学びを深め、概念化を進めます。そこから新たな気づき生まれ、それを種に卒業研究につなげる場合もあるかもしれません。



G 薬学研究

薬剤師には臨床現場の課題を解決し、医療の進展に貢献するための研究力が求められています。そのために薬学部では卒業研究を通して、自ら研究を企画・実践し薬学や医療の発展に貢献する研究を適正に遂行するための力を養います。

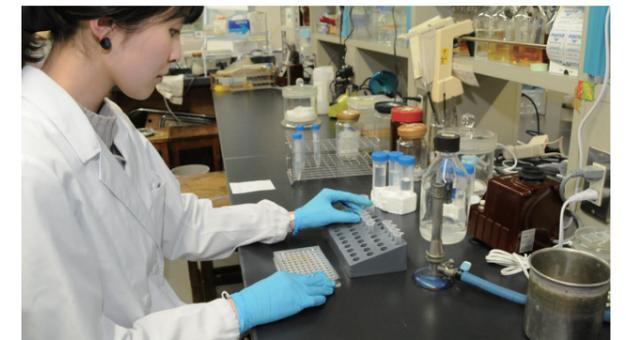
■薬学研究の主な学修内容

●薬学的課題の探究と薬学研究に取り組む姿勢

薬学や医療に関する研究の学術的重要性や社会的意義を理解し、科学的根拠に基づいた批判的思考と俯瞰的思考を身につけます。

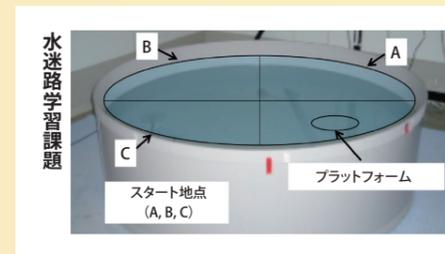
●研究の実践

卒業研究によって、研究課題の設定、研究計画の立案、研究の実施、得られた結果の検討、考察、研究成果の学術的まとめ、卒業研究発表会や学会等での報告、という一連の経験を通して自ら研究を企画・実践する力を養います。



薬学部では、基礎科学から応用科学に至るまで、多岐にわたる研究が行われています。薬の成り立ちや製造方法の探求から、病気の患者さんに薬を適切に使用するための研究まで、幅広い分野に取り組んでいます。つまり薬学の研究は、薬を通じて人類の未来を切り拓くことを目指す、総合的かつ応用的な科学の探究といえます。

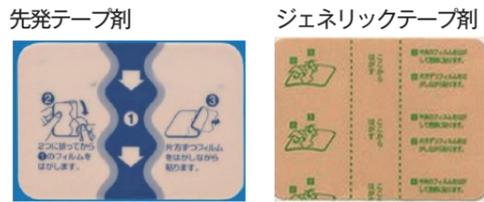
漢方薬のサイエンス
治療効果の薬理的
エビデンスを明らかに。



09

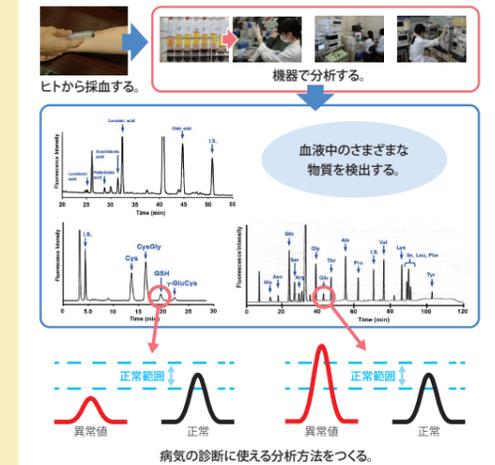
ジェネリック医薬品の
製剤的な特徴を
臨床現場に伝える。

01



08

血液検査による
精神疾患の
診断法を考案する。



07

ドラッグデリバリーシステムの
技術を活かして社会貢献。



多様な研究が
未来を切り拓く

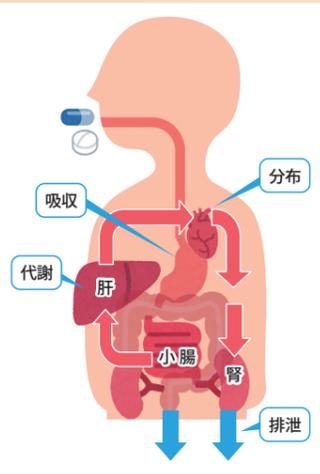
最先端の研究を
見てみよう▶▶▶▶



詳細はこちら

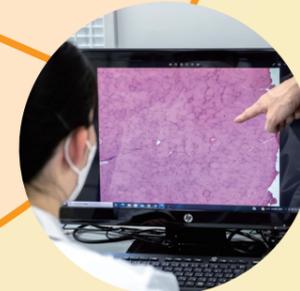
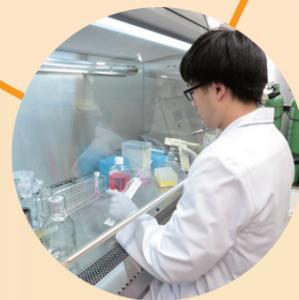
02

薬物動態学を駆使して
患者に合わせた
薬物療法を実現する。



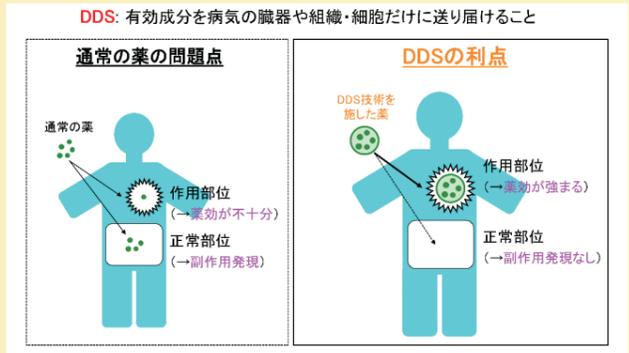
03

患者の声をもとに、
薬物治療の適正化と
医療安全に貢献する。



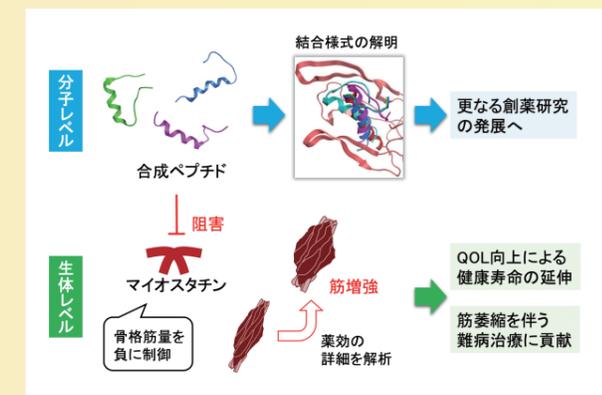
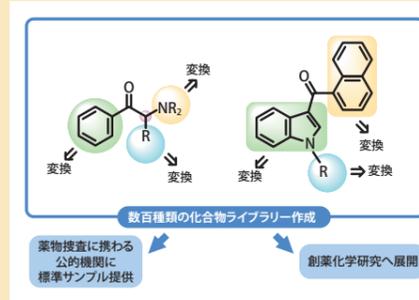
06

化合物の目線から生命現象と対峙し、
病気の治療や健康増進に貢献する。



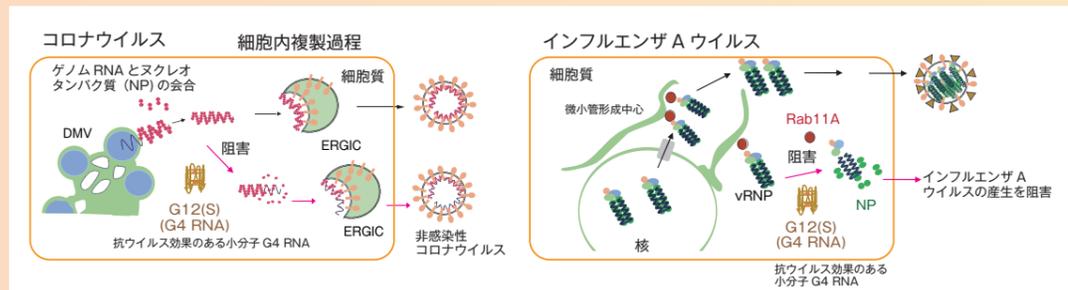
05

薬剤師の活動に
化学を活かす。



パンデミックに
備えた抗ウイルス薬
開発を目指す。

04



卒業後の進路

薬剤師の仕事を見てみよう



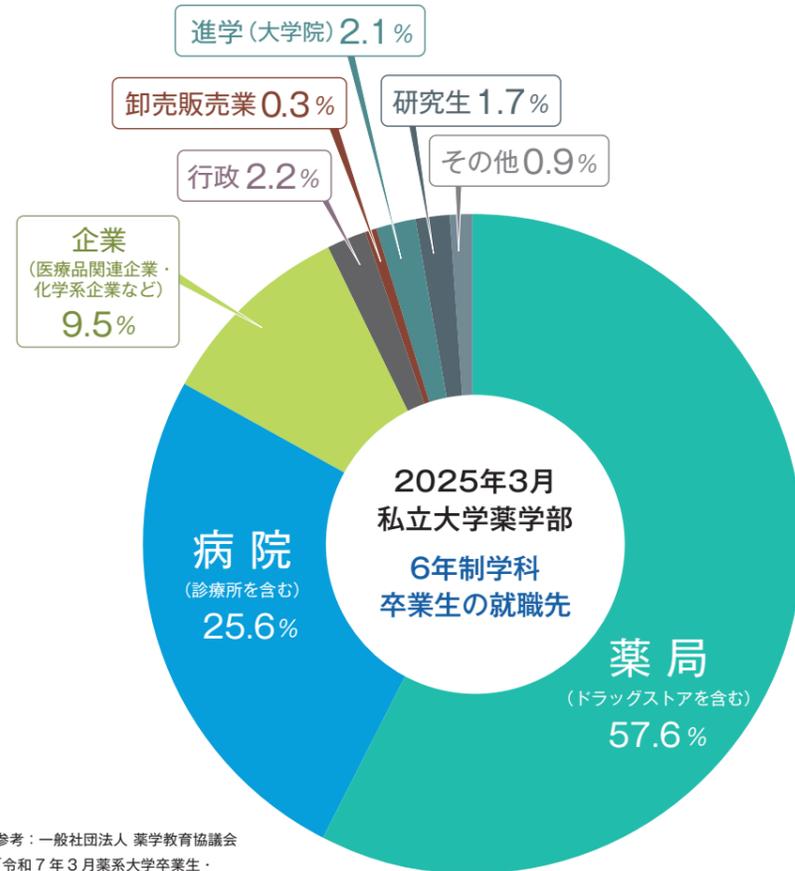
薬学部卒業後の進路はさまざま、薬学の知識を活かせる職場は多岐にわたります。大学院への進学や研修生として病院に所属する道もあり、少子高齢社会の中で薬の専門家としての薬剤師への期待は年々高まっています。

ここでは、先輩薬剤師の働く姿をレポートしました。皆さんの知らなかった職場もあるかもしれません。あなたの目指す薬剤師像を見つけてください。

薬剤師としての活躍の場

6年間の高度な専門教育を受けた薬剤師は、医療や健康に関連する多様な職場で強く求められる人材となっています。

病院では、チーム医療の一員として、入院患者の服薬状況の確認や指導、近年は診断結果に基づいて処方設計や提案などを行っています。地域では、薬局で服薬指導した患者や自宅療養中の患者に対して、薬物治療の状況を継続的に確認し、必要に応じて治療上の指導を行います。そのほかにも、製薬企業で薬学のスペシャリストとして薬の安全性情報や臨床研究の支援を担当する、国や地方自治体の機関で薬や健康に関連する業務に携わるなど、薬剤師は幅広い領域で活躍できる職種なのです。



参考：一般社団法人 薬学教育協議会
「令和7年3月薬系大学卒業生・大学院修了者就職動向調査の集計報告」をもとに作成

COLUMN

薬の奥深さに迫る-大学院で学ぶ研究の魅力

みなさんにとって「薬」とは、どんな存在でしょうか。多くの人は「病気を治すもの」と答えるかもしれません。では、薬が体の中でどのように働き、効果を生み出すのか考えたことはありますか？私は、がん治療に用いられる抗がん剤の効果をより高める研究に取り組んでいます。特に「オートファジー」という、細胞が自分自身を分解してリサイクルする機能に注目し、薬の効き方との関わりを探っています。薬が効く理由は一つではなく、細胞の中にある無数の仕組みが互いに影響し合っ、効果を発揮します。時には思いがけない発見が、新たな研究の扉を開くこともあります。小さな発見の積み重ねが、将来の治療法につながる可能性を秘めていると考え、研究の毎日が刺激的です。

こうした未知の領域に挑み、自分の手で新しい答えを見出していくことが、大学院で研究する大きな魅力だと感じています。その過程で培った探究心や論理的な思考力は、薬学の未来を切り拓き、新しい治療の希望へとつながっていくと信じています。



遠藤 翔也さん 博士課程4年

大学院

薬学部で6年間の教育を終えた後、さらなる研究をしたい人は、大学院に進むことができます。私立大学薬学部6年制学科の卒業生131名が4年間の博士課程に進学しました。

この課程では、医療現場での先進技術や課題、特定の疾患への薬物治療などに関わる、より高度な研究が行われます。研究をしながら、医療現場で長期間の実務研修を受けられるコースを設置する大学もあります。

薬剤師レジデント制度(研修生)

薬学部卒業後、病院で臨床薬剤師業務を学び、薬剤師としてのキャリアアップを目指す制度です。生活の基盤を維持できるように給与が病院から支払われるため、安心して質の高い研修を受けることができます。現在、国立大学病院、私立大学病院、地方公共団体など、およそ50の施設が薬剤師レジデント制度を実施しています。

研修期間は施設によって異なりますが、1～5年間にわたって段階的なプログラムを提示しています。プログラムは大きく2つに分類されます。1つは調剤や病棟業務、抗がん剤調製など、総合的な薬剤業務を学ぶ初期研修のプログラム、もう1つはがん専門薬剤師などの養成を目的とした専門薬剤師プログラムです。がんや感染制御、糖尿病などの専門・認定を受けた薬剤師がマンツーマンで集中的に教育します。

応募者は新卒生だけでなく、病院や薬局に勤務する薬剤師、博士の学位を取得した後、臨床研修を目的とする薬剤師などさまざまです。研修終了後は、そのまま研修施設に採用され、認定薬剤師・専門薬剤師を目指す人が大半を占めますが、薬局や大学、企業、行政などで活躍する人も少なくありません。

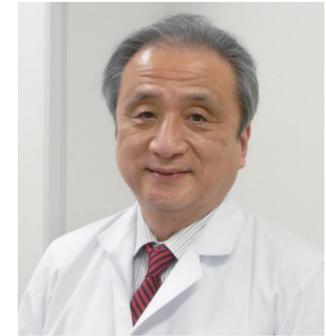
このように薬剤師としての最初の第一歩において薬剤師レジデントの果たす役割は大きいと考えています。



レジデント(写真中央)の抗がん剤調製を化学療法室担当薬剤師が監査



実習生に指導するレジデント(右)



日本薬剤師レジデント
制度研究会監事
橋田 亨氏
(神戸市立医療センター中央市民病院院長補佐)

「専門薬剤師」「認定薬剤師」

薬剤師としての基本的な資質の一つとして「自己研鑽」が求められており、卒業後も研鑽を積んで、常に最先端の医療を提供する責務を担っています。

研修の方法は、講習会だけでなくe-ラーニングやビデオ配信など、全国の薬剤師が仕事をしながら学べる仕組みが整えられています。

各大学でも自大学の卒業生だけでなく幅広く希望者に講習会などを開催して生涯研修を支援しています。

特定の領域についてのスペシャリストとして、「専門薬剤師」や「認定薬剤師」の資格を取得し、医療現場で専門性を発揮している薬剤師も数多くいます。



卒後研修を受ける薬剤師

多職種、地域の薬剤師と連携して 最適な薬物療法を提供する。

病 院

Q. 薬学部を目指した理由は？

薬学部は得意な理系科目を活かしながら人の役に立てる点に魅力を感じました。そして、薬剤師は薬の専門家として地域医療や健康を支える重要な存在であり、私もその一員として多くの人に貢献したいと思い、薬学部を目指しました。

Q. 病院薬剤師として、どのような点にやりがいを感じますか？

病院薬剤師の仕事は、患者さんの「最適な薬物療法」を追求することができます。特に急性期病院では、患者さんの状態が日々刻々と変化するため、一人ひとりの状態や薬の副作用を注意深くモニタリングし、専門知識を活かして薬物療法を調整できる点にやりがいを感じます。

病院という環境では、医師や看護師といった多職種と密接なコミュニケーションがとりやすいことも魅力です。これにより、処方変更の提案がしやすく、検査値や画像データを確認しながらの迅速なフォローアップが可能になります。経験を重ねることに専門性を活かした判断力が磨かれ、難易度の高い問題に自信を持って対応できるようになった時、自身の成長を実感できます。

Q. 病院薬剤師として、どのような工夫をされていますか？

日々の業務では、患者さんにとってより安全で質の高い薬物療法を実現するため、「情報収集の体制づくり」と「地域との連携強化」に工夫を凝らしています。特に注力しているのが、「薬業連携」の強化です。患者さんが退院後も安心して薬物療法を継続で

きるよう、病院と地域の薬局との連携を特に重視しています。以前の勤務先で推進した「施設間情報連絡書※」による情報共有はその具体的な取り組みの一つです。これは、お薬手帳の情報だけでなく、「なぜ入院したのか」「処方の根拠は何か」といった、薬局薬剤師が薬物療法をフォローアップするために必要な情報を共有する重要な手段です。

Q. 高校生へメッセージをお願いします。

薬学の学びにおいて、自分で懸命に考える姿勢が大切です。また、多様性を理解し、さまざまな価値観を尊重することが医療現場では欠かせません。多様な人々と関わるとともに多くのことに挑戦していただければと思います。

※施設間情報連絡書：患者さんが病院から薬局、病院から別の病院、あるいは自宅療養へ移行する際に、関係する施設間で患者さんの情報を円滑に共有し、安全で継続的な医療・薬物療法を提供するために活用される文書。

鈴木 亮平さん

国立病院機構三重中央医療センター
薬学博士 医療薬学専門薬剤師

2014年薬学部卒業後、国立病院機構東名古屋病院に入職、2023年10月より国立病院機構三重中央医療センター。東名古屋病院では病院薬剤師として慢性期・回復期領域で幅広い分野の経験を積みジェネラリストとなる。三重中央医療センターでは急性期・感染症領域のスペシャリストを目指して奮闘している。



専門性を活かして 在宅医療にかかわる薬局薬剤師。

薬 局

Q. 薬学部を目指した理由は？

大学の薬局実習で、薬剤師が在宅医療にかかわる姿を見て、長く一人の患者さんと深く関わる仕事に魅力を感じたのが大きな理由です。病院実習では、入院期間の短縮化が進む現状を知り、より長く患者さんに寄り添える薬局での仕事に可能性を見いだしました。

Q. 在宅医療に注力する薬局を選んだのはなぜですか？

2015年に厚生労働省が「患者のための薬局ビジョン」を打ち出し、在宅医療や健康サポートなど、薬局の新たな役割が示されました。もともと薬局実習で在宅医療に興味があったため、「地域包括ケアシステム」への貢献を掲げ、在宅医療に注力している会社を選びました。

Q. 今の仕事のやりがいや面白さはどんな点ですか？

一番のやりがいは、薬学的観点から医師と協働し、よりよい薬物治療を目指すことです。特に私は「地域薬学ケア専門薬剤師(がん)」の資格を活かし、がん患者さんの在宅療養をサポートしています。専

門知識を持って患者さんの病態や治療経過を総合的に把握し、医師に処方変更を提案し、QOL(生活の質)の向上に貢献できることに面白さを感じます。在宅医療は「多職種連携の最たるもの」であり、受け身ではない積極的な姿勢で情報を取りに行くことで、患者さんの見えない情報に触れられる点も魅力です。

Q. 高校生へメッセージをお願いします。

薬剤師には、受け身ではなく「自ら情報を取りに行く積極的な姿勢」が求められます。患者さんの自宅や施設を訪問する在宅医療の現場では、薬局に来るだけでは分からない数多くの情報があり、それを医師や看護師などの他職種と対等に話し合うための武器にする必要があります。また、私は自分の最新の専門知識を後進に伝え、業界全体の薬物治療のレベルアップに貢献したいと考えています。ぜひ皆さんも、薬学という専門性を活かし、地域医療の進歩を担う意欲的な薬剤師を目指してください。

掛谷 雅之さん

有限会社沖動六薬局
地域連携・在宅医療推進部係長
地域薬学ケア専門薬剤師(がん)

2014年薬学部を卒業後、薬局に就職、その後2回の転職を経て現職。以前は、休日になると仕事でかかわりのある医師と連れ立ってゴルフに行くことが多かった。2022年7月に子供が誕生してからは、休日はもっぱら子育てに費やす。今は、子供の成長を見ることが仕事の活力につながっているという。



訪問先ではバイタルチェック、酸素飽和度の測定、残薬チェックなどを行い、一人ひとりに合わせた薬物治療を提供している。

患者さんの心身を トータルでみる漢方薬剤師。

漢方薬局

Q. 薬学部を目指した理由は？

高校時代は美容＝メイクだと思い、美容専門学校を希望していたのですが、進路指導の先生の「もっと俯瞰的な視点で美容や健康を捉えるために、薬学部で学んでみては」というアドバイスが転機になりました。薬学部での学びを通して、美容は健康のバロメーターであるという考えをもち、予防医療やオーダーメイド医療に興味を持ちました。

Q. 今の仕事を選んだ理由は？

卒業後、漢方薬局を運営する会社に就職し、漢方の奥深さに触れました。西洋医学だけでなく東洋医学の知識を深めたいと一念発起し、仕事をしながら中医学※1と薬膳の専門資格を取得しました。

その後、「漢方を一般の方にアピールするには飲食店が最適」と考え、2015年に薬膳鍋の店を開業しました。現在は、漢方相談を軸に、鍼灸院の併設、講演、企業コラボなど、漢方という専門性を活かして多方面に活躍の場を広げています。漢方の知恵をどう広げ、どう役立てるかを常に追求しています。

Q. 仕事のやりがいは？

一番のやりがいは、お客様が漢方相談を通して大きく変わっていく姿を間近で見られることです。

漢方治療は、単に症状を改善するだけでなく、その人の考え方にも影響を与えます。病気を悪と決めつけるのではなく、身体からの

サインであり体質を見直すきっかけであること。考え方が変わることで、漢方薬をやめた後も健康を維持できる体になるのです。また、食事や睡眠、悩みなどを総合的に聞き取る漢方薬剤師は、関連する医療全体を結びつけ、患者さんをトータルで支える「ハブの役割」を果たせることも大きな魅力だと感じています。

Q. 高校生へメッセージをお願いします。

大学は、誰かに与えられた道を歩む場ではなく、自分の意思を形にしていけるためのトレーニングの場です。頭の中で考えているだけでなく、勇気を出して行動し、自分の道をつくっていきましょう。自分の興味を追求する勇気が、新たなキャリアの扉を開きます。



山口 りりこさん

株式会社 kampo lab
代表取締役
薬剤師・薬膳師・国際中医師※2

2012年薬学部卒業。台湾が好きで、しばしば訪れているという。日常の食生活に医食同源の考え方が根付いている台湾は、健康に対する意識も高い。薬膳師でもある山口さんにとっても台湾への旅は、趣味と実益を兼ねている。

※1 中医学：中国の伝統医学、いわゆる中国漢方。
※2 国際中医師：中国では中医学を修め、国家試験を合格した者に中医師(医者)という資格が与えられる。国際中医師は、中医師並みの知識を有することを中国政府の外郭団体「世界中医薬学会連合会」が認定する国際資格。医者ではない。

最先端の医学・科学情報について 医師とディスカッションする。

製薬企業

Q. 今の仕事を選んだ理由は？

薬学部の病院実習で悪性リンパ腫の患者さんを担当したことが、私の仕事の原点です。

現在は製薬企業の MA 部門でメディカル・サイエンス・リエゾン(MSL)として活動しています。この仕事は、営業部門から独立した公正な立場で、世界の最新治療データを収集し、臨床の第一線で活躍されている医師と治療のあり方や現場のニーズについて議論できることに魅力を感じました。

Q. 仕事のやりがいは？

MSLとして、文献を読み込み、国内外の学会に参加して収集した最新データや新しい分析データを医師に提供し、治療のあり方について深く議論します。ディスカッションを通じて新しい発見があったり、医師から「考えがまとまった」と感謝されたりする瞬間に大きな充実感を感じます。

また、医師との対話を通して、現場で不足しているデータや満たされていないニーズを聞き出すことも重要な役割です。これらの情報を社内にフィードバックすることで、医療の発展に貢献できることに大きなやりがいを感じています。

Q. 高校生へメッセージをお願いします。

学生の時に患者さんと向き合った経験から、「薬の専門家として役割を果たす」ことの責任とやりがいを見いだすことがで

きました。この経験があったからこそ、今も薬物治療の発展のために努力を続けることができています。皆さんも、さまざまな経験を通して「自分が将来何をしたいのか」をじっくり考えてみてください。

製薬企業において、医薬品情報を担当する役割

メディカルアフェアーズ部門		営業部門
営業部門とは独立し、高度な医学的・科学的専門性に基づく活動を主業務とする。		自社の製品の情報提供・プロモーションを主業務とする。
メディカル・サイエンス・リエゾン(MSL)	メディカル・インフォメーション(MI)	医薬情報担当者(Medical Representative=MR)
公正かつ客観的な立場で、医師や研究者と最新の知識に基づく高度な医学的・科学的情報について議論する。	疾患や治療とその医薬品に関わる最新情報の収集・解析および提供を行う。社外関係者に提供される資料・文書のレビュー、薬関連専門文書の作成をする。	製薬企業で自社製品の有効性、安全性情報を医師や薬剤師に提供し、同時に副作用情報などを医療従事者から収集する。

恩田 愛子さん

MSD 株式会社
オンコロジー・メディカルアフェアーズ
メディカル・サイエンス・リエゾン

2009年薬学部卒業。在宅勤務が増えた時期は、ジムやテニスで意識的に体を動かして運動不足を解消。海外の学会に参加することも多いため、英会話のレッスンにも力を入れている。



安全性・有効性および品質の高い医薬品がより早く確実に 開発され上市されるよう技術的要件に関する国際調和を目指す。

医薬品医療機器総合機構

Q. 薬学部を目指した理由は？

科学が好きで、漠然と理系分野に進もうと考えていました。その中で、努力が資格という形になり、専門性を磨くことで基礎研究から臨床まで幅広く社会貢献できることに魅力を感じ、薬学部を目指しました。

Q. 今の仕事を選んだ理由は？

私が今の仕事を選んだのは、大学での経験が大きく影響しています。学生時代、私は医薬品開発規制科学の研究室に所属し、さらにアメリカ食品医薬品局(FDA)でインターンとして行政官の仕事を経験させていただきました。こうした経験を通じて、医薬品の品質、有効性、安全性の確保に携わるPMDAの業務、特に私が担当している医薬品の安全対策という分野に、強く興味を持つようになりました。大学やFDAで培った視点や知識が、今の私の仕事の基盤になっています。

Q. 仕事のやりがいは？

直接患者さんに接する機会はありませんが、私たちが治療に影響する情報の発信や安全対策に関わることで、結果として多くの患者さんの治療に貢献できるところに、この仕事の大きな魅力とやりがいを感じています。成果物のその先に、医療従事者の方々や、治療を受けている患者さんがいることを常に意識しながら、日々業務に取り組んでいます。

Q. 高校生へメッセージをお願いします。

高校生の皆さんには、まず「薬学部での学びが本当に今の業務に直結している」ということを伝えたいです。例えば、薬の副作用を評価する上で、薬学部で学んだ薬理や薬物動態といった基礎的な知識は欠かせません。

また、PMDAには薬剤師以外にも、医師、歯科医師、獣医師、疫学の専門家など、多様な背景を持つスタッフがいます。協調性を持って他職種と連携することが非常に重要になります。

薬学部での学びは、将来、より有効でより安全な医薬品を世に送り出すという、社会貢献度の高い仕事につながる可能性を秘めています。まずは、日々の学びを大切にしながら興味・関心を広げていき、将来どのような仕事がしたいか、少しずつ考えてみてください。



難波 友香莉さん

独立行政法人 医薬品医療機器総合機構(PMDA)
医薬品安全対策第二部
(併)医薬品安全対策第一部 調査専門員
2018年薬学部卒業。大学では英語劇のサークルに所属。演じ手よりは、脚本や演出など作り手としての活動が主だった。活動的な性格で、趣味は海外旅行。

都道府県庁

地域のためにベストの 選択肢を模索する公務員薬剤師。

Q. 薬学部を目指した理由は？

将来の進路に悩んでいた私に、親が「何か資格を持っていると、就職先に困らない」と助言してくれました。求人広告で薬剤師の募集が多いことを知り、得意科目の数学と化学を活かせることから、薬剤師免許の取得を目指し薬学部に進むことを決意しました。

Q. 今の仕事(公務員)を選んだ理由は？

以前勤めていた製薬企業では全国転動があったため、結婚を機に全国転動がない勤務先を探していました。それに加えて、「どうせ転職するなら全く知らない世界を見てみたい」という思いがあったこと、そして薬学部在学中に公務員試験の対策講座を受けていたこともあり、公務員の道を選びました。

Q. 今の仕事のやりがいは？

直接患者さんに接する機会はほとんどありませんが、薬学部での学びが仕事に活かしている点にやりがいを感じています。公務員は法令に基づく業務を行うため薬事法規の知識が役立つほか、新型コロナウイルス感染症に関する業務では生化学の知識(PCR法、mRNAなど)が、保健所での食品衛生に関する業務ではカンピロバクターやノロウイルスに関する学びが、そして薬事に関する業務では医薬品全般に関する学びがそれぞれ活

かされています。

また、「地域住民のためにベストの選択肢は何か常に考える」ことを心がけており、行政マンとして成長し、実績が望む部署への異動につながることに意欲を持っています。

Q. 高校生へメッセージをお願いします。

私が新卒で就職する頃は、公務員を志望する学生はごくわずかでした。しかし、この世界に入って、公務員が地域社会においてリーダーとしての役割を担い、大きな裁量を持っていることを知りました。

薬剤師が活躍できる場所は、病院や薬局、企業だけではなくあります。進路を考える際は、ぜひ広い視野で臨み、さまざまな可能性に目を向けてほしいと思います。

鈴木 克弥さん

栃木県保健福祉部
国保医療課兼感染症対策課 主任

2012年薬学部卒業。製薬企業勤務を経て2016年に栃木県に入庁。趣味の卓球は、中学校時代に宇都宮市の大会でベスト8に残ったほどの実力。県庁の卓球部に所属し、毎年、栃木、茨城、群馬、神奈川の4県庁大会に参加している。大会の際に、開催地の観光地をたどるのも楽しみの一つ。



治験を支援する立場で新薬開発にかかわる。

CRO(開発業務受託機関)

Q. 薬学部を目指した理由は？

母が製薬会社で働いていた影響で薬に関心を持ち、化学が好きだったこともあり、人の健康に貢献できる薬学の道を志しました。

Q. 今の仕事を選んだ理由は？

薬剤師として働く選択肢もありましたが、私は新薬の開発という、より広い視野で医療に貢献したいという思いがありました。就職活動では、製薬企業も検討しましたが、CRO※1であれば、特定の企業に限定されず、幅広い新薬開発に携われる点に魅力を感じました。

Q. 仕事のやりがいは？

私が担当するCRA※2の仕事は、新薬の治験全体を監督する重要な役割です。患者さんの安全を守りつつ、新薬を一刻も早く世に送り出すという使命との間で、日々バランスを取りながら業務を進めています。特に、がん領域の治験では、想定通りに進まないこともあります。それでも、新薬を待つ患者さんのために、データを積み重ねていくことに大きな責任とやりがいを感じています。

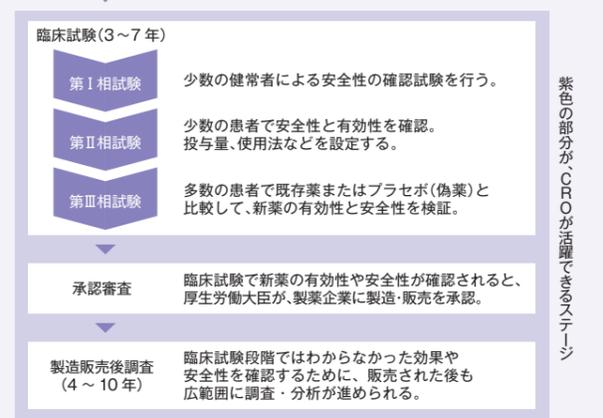
また、最近は国際共同治験が主流になってきており、海外とのメールのやり取りや公式文書の作成で英語を使う機会が増えています。得意な英語を活かせるこの仕事に、意欲的に取り組んでいます。

Q. 高校生へメッセージをお願いします。

新薬開発は、多くの人の命や健康にかかわる、責任の大きな仕事です。新薬が世に出たときの喜びは、何物にも代えがたいものです。もし医療や薬に少しでも興味があるなら、ぜひ一歩踏み出して、自分の可能性を広げてみてください。

■ 医薬品開発の流れ

基礎研究(2~3年) 新薬となる可能性のある新規物質の創製や候補物質を選別。
非臨床試験(3~5年) 主に動物を使って科学的に候補物質を調べ、安全性などを検討。



※1 CRO: Contract Research Organization=医薬品開発業務受託機関
※2 CRA: Clinical Research Associate=臨床開発モニター

関根 修杜さん

シミック株式会社
臨床事業本部 日本CRO協会 CRA

2020年薬学部卒業。趣味は海外旅行。会社はワークライフバランスを充実させる仕組みが整っているため、1年に数回、会社に4~5日の休暇を申請して旅に出る。これまでアジアや中東を中心に世界を旅しているが、中でもシンガポールはお気に入り、何度か訪れているとのこと。



薬物犯罪を取り締まり 国の安全を守る薬剤師。

Q. 薬学部を目指した理由は？

「世の中のために仕事をしたい」という強い思いが、薬学部を志望した原点にあります。病気で困っている人を助ける仕事、ひいては社会に広く貢献できる仕事に就きたいと考えていました。

Q. 今の仕事を選んだ理由は？

世の中のために仕事をしたい、という根底の思いと、薬学的な知識を活かすという視点が結びつきました。国の治安を守る麻薬取締官を目指すのは、私にとって自然な成り行きでした。違法薬物から人々を守り、社会の安全を維持するというミッションに、強くひかれました。

Q. 仕事のやりがいは？

張り込みなどでひたすら待つ時間が長く、地道な活動の連続です。しかし、そこから被疑者の薬物犯罪への関与を確認し、令状を請求して違法薬物を発見し、押収する瞬間は、何物にも代えがたい充実感を味わえます。また、ベテラン捜査官の経験から学びながら、一つひとつの事件を解決していく過程にも大きなやりがいを感じています。

Q. 大学で修得した薬学的知識はどのように活かされていますか？

まず、薬物依存などに関する理解は麻薬取締官として不可欠です。それと同時に、被疑者の人権に配慮するうえでも薬学的知

識は大切になってきます。例えば、被疑者が持病の治療薬を服用している場合、本人の申告内容とお薬手帳や処方箋との整合性を確認する場面などで、専門知識がとても役立っています。

Q. 高校生へメッセージをお願いします。

麻薬取締官は、薬物乱用者、暴力団、不良外国人などと対峙する非常に厳しい世界で仕事をしています。逮捕術の訓練も欠かせません。しかし、薬物犯罪の捜査という地道な活動を通して、国家の治安を守る一翼を担っているという誇りを持っている仕事です。もし皆さんが「世の中のためにやりたい」という強い意志を持っているなら、薬学の知識と熱意を活かせるこの仕事を目指す道も考えてみてください。この仕事には、張り込みなどでじっとしている時間も楽しめるような、粘り強さも求められます。

Aさん

厚生労働省地方厚生局
麻薬取締部捜査課 司法警察員・麻薬取締官

2017年薬学部卒業後、厚生労働省地方厚生局麻薬取締部に入省。休日はショッピングに出かけるなどして過ごし、仕事の緊張を解くことを心がけている。子供の頃に始めた空手は大学まで続けた。卒業後も大学のOB会で現役学生相手に指導したり合宿に参加したりするなど、Bさんにとって大切な生活の柱となっている。
※職務上、氏名および顔写真の掲載を控えました。



全国薬科大学・薬学部一覧

全81校
(私立62校、国立14校、公立5校)

自分にあった
大学を見つけよう



青森県

青森大学
6年制 薬学科
〒030-0943 青森市幸畑2-3-1

岩手県

岩手医科大学
6年制 薬学科
〒028-3694 紫波郡矢巾町医大通1-1-1

宮城県

東北医科薬科大学
6年制 薬学科
4年制 生命薬科学科
〒981-8558 仙台市青葉区小松島4-4-1
東北大学(国立)
6年制 薬学科
4年制 創薬科学科
〒980-8578 仙台市青葉区
荒巻字青葉6-3

福島県

医療創生大学
6年制 薬学科
〒970-8551 いわき市中央台
飯野5-5-1
奥羽大学
6年制 薬学科
〒963-8041 郡山市富田町字
三角堂31-1

北海道

北海道医療大学
6年制 薬学科
〒061-0293 石狩郡当別町金沢1757
北海道科学大学
6年制 薬学科
〒006-8585 札幌市手稲区
前田7条15丁目4-1
北海道大学(国立)
6年制 薬学科
4年制 薬科学科
〒060-0812 札幌市北区北12条西6丁目

広島県

広島国際大学
6年制 薬学科
〒737-0112 呉市広島古新開5-1-1
福山大学
6年制 薬学科
〒729-0292 福山市学園町
1番地三蔵
安田女子大学
6年制 薬学科
〒731-0153 広島市安佐南区
安東6-13-1
広島大学(国立)
6年制 薬学科
4年制 健康生命薬科学科
〒734-8553 広島市南区霞1-2-3

山口県

山陽小野田市立
山口東京理科大学(公立)
6年制 薬学科
〒756-0884 山陽小野田市大学通1-1-1

兵庫県

神戸学院大学
6年制 薬学科
〒650-8586 神戸市中央区港島1-1-3
(ポートアイランド第1キャンパス)
神戸薬科大学
6年制 薬学科
〒658-8558 神戸市東灘区
本山北町4-19-1
姫路獨協大学
6年制 医療薬学科
〒670-8524 姫路市上大野7-2-1
兵庫医科大学
6年制 医療薬学科
〒650-8530 神戸市中央区港島1-3-6
武庫川女子大学
6年制 薬学科
4年制 健康生命薬科学科
〒663-8179 西宮市甲子園九番町11-68

岡山県

就実大学
6年制 薬学科
〒703-8516 岡山市中区西川原1-6-1
岡山大学(国立)
6年制 薬学科
4年制 創薬科学科
〒700-8530 岡山市北区津島中1-1-1

福岡県

国際医療福祉大学
福岡薬学部
6年制 薬学科
〒831-8501 大川市稷津137-1
第一薬科大学
6年制 薬学科
漢方薬学科
4年制 薬科学科
〒815-8511 福岡市南区玉川町22-2
福岡大学
6年制 薬学科
〒814-0180 福岡市城南区七隈8-19-1
九州大学(国立)
6年制 臨床薬学科
4年制 創薬科学科
〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1

長崎県

長崎国際大学
6年制 薬学科
〒859-3298 佐世保市
ハウステンボス町2825-7
長崎大学(国立)
6年制 薬学科
4年制 薬科学科
〒852-8521 長崎市文教町1-14

熊本県

崇城大学
6年制 薬学科
〒860-0082 熊本市西区池田4-22-1
熊本大学(国立)
6年制 薬学科
4年制 創薬・生命薬科学科
〒862-0973 熊本市中央区大江本町5-1

宮崎県

九州医療科学大学
6年制 薬学科
4年制 動物生命薬科学科
〒882-8508 延岡市吉野町1714-1

大阪府

大阪医科薬科大学
6年制 薬学科
〒569-1094 高槻市奈佐原4-20-1
大阪大谷大学
6年制 薬学科
〒584-8540 富田林市錦織北3-11-1
近畿大学
6年制 医療薬学科
4年制 創薬科学科
〒577-8502 東大阪市小若江3-4-1
摂南大学
6年制 薬学科
〒573-0101 枚方市長尾峠町45-1
大阪大学(国立)
6年制 薬学科
〒565-0871 吹田市山田丘1-6

和歌山県

和歌山県立医科大学(公立)
6年制 薬学科
〒640-8156 和歌山市七番丁25-1

滋賀県

立命館大学
6年制 薬学科
4年制 創薬科学科
〒525-8577 草津市野路東1-1-1
(びわこ・くさつキャンパス)

京都府

京都薬科大学
6年制 薬学科
〒607-8414 京都市山科区
御陵中内町5
同志社女子大学
6年制 医療薬学科
〒610-0395 京田辺市興戸
京都大学(国立)
6年制 薬学科
4年制 薬科学科
〒606-8501 京都市左京区
吉田下阿達町46-29

新潟県

新潟薬科大学
6年制 薬学科
〒956-8603 新潟市秋葉区東島265-1

富山県

富山大学(国立)
6年制 薬学科
4年制 創薬科学科
〒930-0194 富山市杉谷2630

石川県

北陸大学
6年制 薬学科
〒920-1181 金沢市金川町ホ3
金沢大学(国立)
6年制 薬学類
4年制 医療科学類
〒920-1192 金沢市角間町

神奈川県

湘南医療大学
6年制 医療薬学科
〒244-0806 横浜市戸塚区上品濃16-48
横浜薬科大学
6年制 健康薬学科
漢方薬学科
臨床薬学科
4年制 薬科学科
〒245-0066 横浜市戸塚区俣野町601

愛知県

愛知学院大学
6年制 医療薬学科
〒464-8650 名古屋市千種区楠元町1-100
金城学院大学
6年制 薬学科
〒463-8521 名古屋市守山区大森2-1723
名城大学
6年制 薬学科
〒468-8503 名古屋市天白区八事山150
名古屋市立大学(公立)
6年制 薬学科
4年制 生命薬科学科
〒467-8603 名古屋市瑞穂区田辺通3-1

岐阜県

岐阜医療科学大学
6年制 薬学科
〒509-0293 可児市虹ヶ丘4-3-3
岐阜薬科大学(公立)
6年制 薬学科
〒501-1196 岐阜市大学西1-25-4

静岡県

静岡県立大学(公立)
6年制 薬学科
4年制 薬科学科
〒422-8526 静岡市駿河区谷田52-1

三重県

鈴鹿医療科学大学
6年制 薬学科
4年制 薬科学科
〒513-8670 鈴鹿市南玉垣町3500-3

香川県

徳島文理大学
香川薬学部
6年制 薬学科
〒760-8542 高松市浜ノ町8-53

徳島県

徳島文理大学
6年制 薬学科
〒770-8514 徳島市山城町西浜傍示180
徳島大学(国立)
6年制 薬学科
〒770-8505 徳島市庄町1-78-1

愛媛県

松山大学
6年制 医療薬学科
〒790-8578 松山市文京町4-2

東京都

北里大学
6年制 薬学科
4年制 生命創薬科学科
〒108-8641 港区白金5-9-1
慶應義塾大学
6年制 薬学科
4年制 薬科学科
〒105-8512 港区芝公園1-5-30
昭和医科大学
6年制 薬学科
〒142-8555 品川区旗の台1-5-8
昭和薬科大学
6年制 薬学科
〒194-8543 町田市東玉川学園3-2-1
帝京大学
6年制 薬学科
〒173-8605 板橋区加賀2-11-1
帝京平成大学
6年制 薬学科
〒164-8530 中野区中野4-21-2

群馬県

高崎健康福祉大学
6年制 薬学科
〒370-0033 高崎市中大類町37-1

栃木県

国際医療福祉大学
6年制 薬学科
〒324-8501 大田原市北金丸2600-1

埼玉県

城西大学
6年制 薬学科
4年制 薬科学科
〒350-0295 坂戸市けやき台1-1
日本薬科大学
6年制 薬学科
〒362-0806 北足立郡伊奈町小室10281
(さいたまキャンパス)
4年制 医療ビジネス薬科学科
〒113-0034 東京都文京区湯島3-15-9
(お茶の水キャンパス)
〒362-0806 北足立郡伊奈町小室10281
(さいたまキャンパス)

千葉県

国際医療福祉大学
成田薬学部
6年制 薬学科
〒286-8686 成田市公津の杜4-3
順天堂大学
6年制 薬学科
〒279-0013 浦安市日の出6-8-1
城西国際大学
6年制 医療薬学科
〒283-8555 東金市求名1
千葉科学大学
6年制 薬学科
〒288-0025 銚子市潮見町15-8
東邦大学
6年制 薬学科
〒274-8510 船橋市三山2-2-1
日本大学
6年制 薬学科
〒274-8555 船橋市習志野台7-7-1
千葉大学(国立)
6年制 薬学科
4年制 薬科学科
〒260-8675 千葉市中央区玄鼻1-8-1

薬学部に行こう！

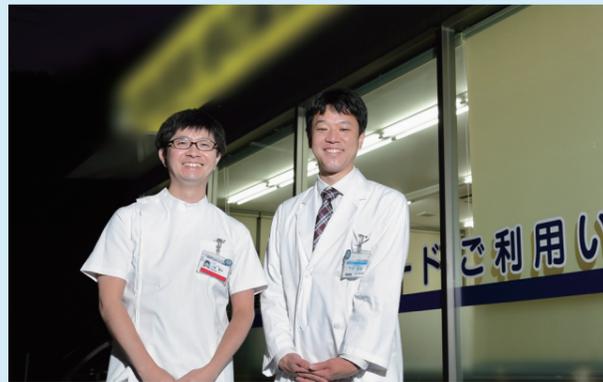
6年制薬学部は医療の世界で主体的に活躍する薬剤師の養成を主たる目的として、2006年（平成18年）に開始されました。薬剤師の資格を得るには6年制薬学部を卒業し、薬剤師国家試験に合格する必要があります。薬学部の教育内容や卒業後の進路について紹介するために『6年制薬学ガイド』を毎年刊行しております。WEBサイトもありますのでぜひご覧ください。

未来の医療を創る君たちへ
君のチカラを活かせる場所が、きっとある！

<https://www.yakugaku-guide.com/>



WEBサイトの多彩なコンテンツ



● 特集・生命をささえる薬剤師

患者の生命をささえるため、医療の最前線で活躍する薬剤師の現場をレポート

● 研究室訪問

人類の未来を切り拓く、多様な薬学の最先端研究を紹介！

● 卒業後の進路

薬学の知識・技術を活かせる仕事は様々。多様な職場で働く先輩の声を聞いてみよう！

LABORATORY INTERVIEW 研究室訪問



丁野 純男 教授
ドラッグデリバリーシステムの
知識を活かして社会貢献

Sumio Chono